

令和7（2025）年度 阪南大学 外部評価

外部評価機関による評価（外部評価表）

評価実施日：2025年9月10日

評価機関名：松原市役所

評価ご担当者様：市長公室企画政策課 係長 水谷 友哉

2024年度事業の評価を実施した結果、以下の通り報告します。

評価対象事業名	ディプロマ・ポリシーに基づくカリキュラム編成
評価点	5 · 4 · 3 · 2 · 1

評価の概評（自由記述）

貴学においては、カリキュラムマップを活用し、ディプロマ・ポリシー達成に至るまでの学修の道筋を明確に示している点が高く評価できる点である。これにより、学生は自身が習得を希望する能力や技術に応じて履修科目を主体的に選択できる体制が整備されており、学修の方向性が明瞭化されていることは、教育課程の理解を深めるとともに、学生の安心感や学修意欲の向上につながっていると評価できる。

さらに、学生アンケートの結果からもその効果が裏付けられている。「興味を持った分野」として「学科科目」を挙げた学生が過半数を超えることは、専門教育が学生の関心を的確に喚起し、学びへの主体的な取り組みを促進していることを示すものである。

このように、学修支援の仕組みが実際の学生の意識変容に結びついている点は高く評価される。

総じて、本学のカリキュラム設計は、学生一人ひとりの学修意欲を喚起し、専門教育の質的充実を図るうえで効果的に機能していると考えられる。今後も、こうした取り組みを発展的に継続することにより、学生が社会で求められる能力を着実に育成していくことが期待される。

評価・助言項目への回答

評価・助言項目1	貴市（松原市）における地域課題や人材育成のニーズに照らして、本学（阪南大学）の専門教育や各学科のカリキュラムは、どのように評価されるでしょうか。以下の観点を参考に、ご意見・ご助言を賜れますと幸いです。 <u>（評価の視点）</u> <ul style="list-style-type: none">● 現在、松原市が抱える地域課題（例：地域産業の活性化、商業施設の活用、観光・文化資源の発信、若者の地元定着、福祉・防災の強化など）に対して、阪南大学のどのような学びが貢献できると感じられますか？● 貴市における将来の人材像（例：地域課題に主体的に取り組める若者、多文化理解やICT活用ができる人材等）に照らして、本学の学生に今後より育成してほしい力・資質は何でしょうか？
----------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域と大学との連携をより実効性あるものとするために、教育内容や連携方法について期待される点がありましたらご教示ください。
	<p>●観光資源の発信に対して、観光学や文化政策、情報発信・PRに関する学習を活かし、地域の歴史・文化・自然資源を広く発信する施策を企画可能だと考える。また、SNS やデジタルメディアを活用した情報発信、地域マップ作成、観光ツアーの企画などについて連携できるのではないかと考える。</p> <p>●本市の地域課題に主体的に向き合い、行政や地域と連携して具体的に解決策を提案・実行できる資質を持たれた学生の育成を期待する。</p> <p>●学生が地域課題への理解と地域貢献への意欲を高めることができ、また、市としては新しいアイデアや実践的な解決策を得ることができるよう単年度にとどまらず長期的に継続可能で柔軟な連携体制の構築を期待する。</p>
評価・助言項目 2	<p>市役所として、大学の教育内容や教育方法の改善に対して、以下のような観点から連携・協力が可能な取り組みがあればご教示ください。</p> <p><u>(評価の視点)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大学の教育に対して、行政として協力・支援が可能だとお感じになることはありますか？ (例：市が抱える課題や行政施策を題材とした課題提供（PBL^{*4}・ゼミ等への活用）、地域行事や政策形成プロセスへの学生参加の機会提供) ● これまでに大学（阪南大学以外も含む）と連携して効果的だった、あるいは今後可能性を感じている取組があればご記入ください。 ● 大学との連携を進める上で、改善や工夫が望ましいとお感じの点（連携体制、情報共有、活動の継続性など）があれば、あわせてご意見をお聞かせください。
	<p>●学生のワークショップへの参加やインターンシップ、共同プロジェクトなど、地域現場での実践的経験の機会提供が可能だと考える。</p> <p>●松原市市政施行 70 周年を機に大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」にならって、「未来の松原のデザイン」を考える市民会議を実施し貴大学の学生に参加していただき「未来の松原」について様々な立場・世代の方々と活発な意見交換を行った。</p> <p>また、同記念事業である「まつばランタンフェスティバル」を貴学で実施させていただき、多くの学生のご協力もあり、盛大のうちにイベントを終了することができた。</p> <p>●貴大学と本市が連携を進める上で、双方の連携による目的などを明確にし、学生の学びと本市の地域課題の解決の両方を図ることができる連携体制の構築が望まれる。</p>
評価・助言項目 3	<p>今後、松原市と本学（阪南大学）が連携して取り組むべき人材育成について、以下のような観点からご意見をいただけますと幸いです。</p> <p><u>(評価の視点)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 松原市の将来像や地域課題（例：地域産業の活性化、若者の定着、福祉・子育て支援、防災・防犯、地域コミュニティの再構築など）を踏まえた場合、どのような人材が今後特に求められるとお考えでしょうか？ ● そうした人材を育成するために、大学が担うべき役割や教育上の重点領域（例：地域マネ

	ジメント、ICT・データ活用、地域福祉、起業・観光振興、公共政策理解など）について、ご期待やご提案があればお聞かせください。
	<ul style="list-style-type: none">●課題を的確に把握できる分析力を備えるとともに、地域住民や関係機関と協働し合意形成を進める調整力、さらに現場で柔軟に対応し持続的に取り組みを推進できる実行力を持つ人材が求められる。●本市において情報発信や ICT の活用に弱みがある現状を踏まえ、大学には最新のデジタル技術や広報戦略に関する教育を体系的に行い、実務で活かせる人材を育成する役割が求められる。特に、データ分析や DX 推進、SNS を含む効果的な情報発信、行政手続きのオンライン化といった分野を教育の重点領域とし、実践的な演習や地域と連携した事業を通じて、行政課題に即応できる人材の輩出が期待される。

令和7（2025）年度 阪南大学 外部評価

外部評価機関による評価（外部評価表）

評価実施日：2025年9月10日

評価機関名：松原市役所

評価ご担当者様：市長公室企画政策課 係長 水谷 友哉

2024年度事業の評価を実施した結果、以下の通り報告します。

評価対象事業名	地域連携による教育の推進
評価点	5 . 4 . 3 . 2 . 1

評価の概評（自由記述）

本市との地域連携の取組として、様々な分野において行政のニーズに沿った内容で貢献いたいでおり、学生が主体となって取組を行うことは地域への愛着や誇りを持つ契機となり、次世代の人材育成につながっている。また、実際に連携する中で、地域が協働する活動における賑わいの創出、地域社会における相互理解の基盤形成、地域住民の交流の場を拡大など、様々な波及効果が生まれている。さらに学生という立場を活かした既存の枠組みにとらわれない提案や企画により地域課題の解決の可能性の幅が広がっている。貴学の地域連携教育は、地域活性化の推進力としての役割を果たすとともに、次世代を担う人材の育成に繋がると考える。今後、さらに協働領域を拡大することで、持続可能な地域づくりの基盤強化の一助となることを期待する。

評価・助言項目への回答

評価・助言項目1	<p>本学（阪南大学）が担っている地域連携の取組について、松原市行政の視点から見た際に、現在の活動が行政ニーズにどの程度貢献しているとお感じでしょうか。以下の観点を参考に、ご評価・ご助言をいただけますと幸いです。</p> <p><u>(評価の視点)</u></p> <ul style="list-style-type: none">● 現在の大学の取組（例：学生の地域イベント参加、地域課題への提案、調査協力、広報連携等）は、以下のような松原市のニーズに合致しているとお感じになりますか？ <ul style="list-style-type: none">・地域産業・商業振興・地域防災・防犯・環境整備・子育て支援・教育連携・若者の地元定着や雇用促進・地域コミュニティ活性化・文化振興 <ul style="list-style-type: none">● 今後、大学がより行政のパートナーとして地域に貢献するために、強化すべき役割・連携分野があればお聞かせください。（例：政策形成段階からの参画、市職員との共同ワークショ
----------	---

	ップ、学術的知見の提供 など)
● 地域産業・商業振興	まつばらマルシェをはじめとした地域産業・商業の活性化に資する本市主催の催事に対し、積極的な参画・協力を行っており、一定の効果が生まれているものと考える。
● 地域防災・防犯・環境整備	本市と「災害時における避難所等施設利用に関する協定」を結び、地域の住民の避難所として提供を行っており、地域防災・環境整備に貢献していると考える。
● 子育て支援・教育連携	学生の企画により地域の子どもが様々な催物を楽しめる「こどもよこちよう」を定期的に開催しており、次世代の育成につながっているものと考える。更なる次世代育成の観点から子どもたちが SDGs などの社会問題を楽しく学べるような催物等が増えしていくことを期待する。
● 若者の地元定着や雇用促進	本市が取り組む移住定住促進事業の広報協力を行っており、生徒の申請誘導だけでなく、ホームページなどの告知を通じて、志望校となる裾野を広げ、本市への交流人口の増加やその先の雇用促進まで繋がっていると考える。
● 地域コミュニティ活性化・文化振興	大学周辺の清掃をする「クリーンキャンペーン」を学生団体が主催しており、地域の環境整備だけでなく、地域の方々との繋がり創出につながっていると考える。
評価・助言項目 2	<p>本学（阪南大学）の学生と地域が協働する活動について、市民との交流や地域活性化に対してどのような影響・効果があったと感じられますか。以下の観点を参考にしながら、ご意見をお聞かせください。</p> <p>(評価の視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学生との協働を通じて感じられた地域へのプラスの影響があれば、具体的にお聞かせください。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントの活性化や参加者の増加 ・市民の若者に対する理解・親近感の醸成 ・地域課題に対する新たな視点や提案の提供 ・商業施設や公共空間の活用の新たな可能性 <p>ご自身または地域住民の立場から、「学生と地域が共に活動してよかった」と感じたエピソードや印象的な事例があれば、自由にご記入ください。</p>
● 地域イベントの活性化及び参加者の増加	学生が持つ発想力や行動力を活かした企画により、イベントが充実した。加えて、学生による情報発信により新たな参加者層を呼び込み、地域行事の参加者増加と賑わいの創出につながっていると考える。
● 若者に対する理解・親近感の醸成	市民と学生が直接交流する機会が増加したことにより、若者世代に対する理解や親近感が深まり、地域社会における相互理解の基盤が形成されていると考える。
● 地域課題への新たな視点の提供	学生は既存の枠組みにとらわれない柔軟な発想をもって新たな視点や提案を提示する力がある。これにより地域課題解

決の可能性が広がっていると感じる。

●商業施設及び公共空間活用の可能性

学生との協働により、商業施設や公共空間でイベント等を行うことで、地域住民の交流の場を拡大させるとともに、地域経済への波及効果をもたらしていると考える。

本市として、貴学との協働は、地域活性化の促進、市民と若者との交流基盤の強化、さらには地域課題解決に資する新たな可能性を提示するものとして、評価できる。

評価・助言項目3	<p>大学の授業や教育活動を、松原市の行政施策とより効果的に連動させるために、以下のような観点からご提案・ご助言をいただけますと幸いです。</p> <p>(評価の視点)</p> <ul style="list-style-type: none">● 行政施策（地域振興、防災、福祉、教育、商業活性化など）に大学が貢献できそうな授業・活動分野があれば、具体的にお聞かせください。<ul style="list-style-type: none">・ゼミや講義で市の政策課題を扱う・学生が地域調査やワークショップに参加する・市のイベントや広報物の企画・制作への協力 など● 教育活動と行政施策を連動させるうえで、有効だと考えられる取組方法や連携体制（例：定期的な意見交換、施策テーマの提供、職員による講義等）があればご提案ください。● これまでの連携経験を踏まえて、「このような仕組みがあれば運動しやすい」「こうした課題が連携を難しくしている」といったご意見もございましたら、ご自由にご記入ください。
----------	---

●行政施策に資する教育分野・活動例

○地域振興・商業活性化

ゼミや講義において松原市の地域資源を題材とした研究やふるさと納税返礼品の企画などを行い、学生の視点を活かした観光振興策や活用策を提案いただく。

○防災・福祉

学生が地域調査や防災訓練等に参加し、地域の方々と交流しながら、松原市の地域や取組について、理解を深めてもうる。

○広報

市のイベントや広報物の企画・制作に学生が参画することで、より若年層に届く表現や情報発信が可能となり、行政情報の到達度向上につながる。

●連動を図るための取組方法・連携体制

定期的な意見交換の場を設け、大学と市が相互にニーズや取組状況を把握する。

市の重点施策テーマを大学に提示し、ゼミや講義の題材として活用する。

●連携を進める上での課題・改善点

学生の提案を市の施策に反映するプロセスを明確にすることで、協働の効果が一層高まる。